

2017 年度第 1 回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2017 年(平成 29 年)6 月 3 日(土曜日) 14:30~21:30

開催会場：静岡県三島市 三島市民文化会館

議事録作成者：広報部長 坂野 翔哉（東京理科大学）

議題

1.方針について.....	3
2.加盟校基準について.....	4
3.インカレリレー特例措置について.....	6
4.全日本大会について.....	7
5.秋インカレに関するお知らせ.....	11
6.スキーOのユニバーシアードについて/JOAの現状と今後の事業方針について.....	11
7.地図会計について.....	13
8.インカレのペナントについて.....	14
9.インカレスプリント会計について.....	15
10.事業計画について.....	16
11.千葉大学涉外問題について.....	18
12.普及新歓活動について.....	19
13.技術委員会の今後について.....	20
14.メーリスについて.....	21
15.HPについて.....	22
16.後援大会について.....	22
17.学連発足35周年に向けて.....	23
18.理事会報告.....	23
19.各部局活動報告.....	23
20.地区学連活動報告.....	24
21.次回幹事会について.....	24

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
齋藤 翔太	理事	一橋大学卒
村越 真	JOA 副会長	東京大学卒
瀬川 出	幹事長	東京大学
成澤 春菜	副幹事長	フェリス女学院大学
竹内 公一	会計	名古屋大学
矢野 峻平	事業部長	大阪大学
坂野 翔哉	広報部長	東京理科大学
山川 登	広報部	東京大学
吉澤 佳奈	事務局長	日本女子大学
塩平 真士	会計監査	北海道大学
丸山 真輝	北東学連幹事長	東北大学
小山 友綺	北信越学連幹事長	金沢大学
上野 康平	関東学連幹事長	東京工業大学
西嶋 就平	東海学連幹事長	名古屋大学
遠藤 匠真	関西学連幹事長	大阪大学
山本 徳高	中四国九州学連幹事長	岡山大学

発言者に関して、本議事録内の「山川」はすべて副会長の山川克則を指す。

1.方針について

要旨

新しい年度で日本学連が発足したため、改めて日本学連の組織の説明、幹事がどういう役割か説明を行った。

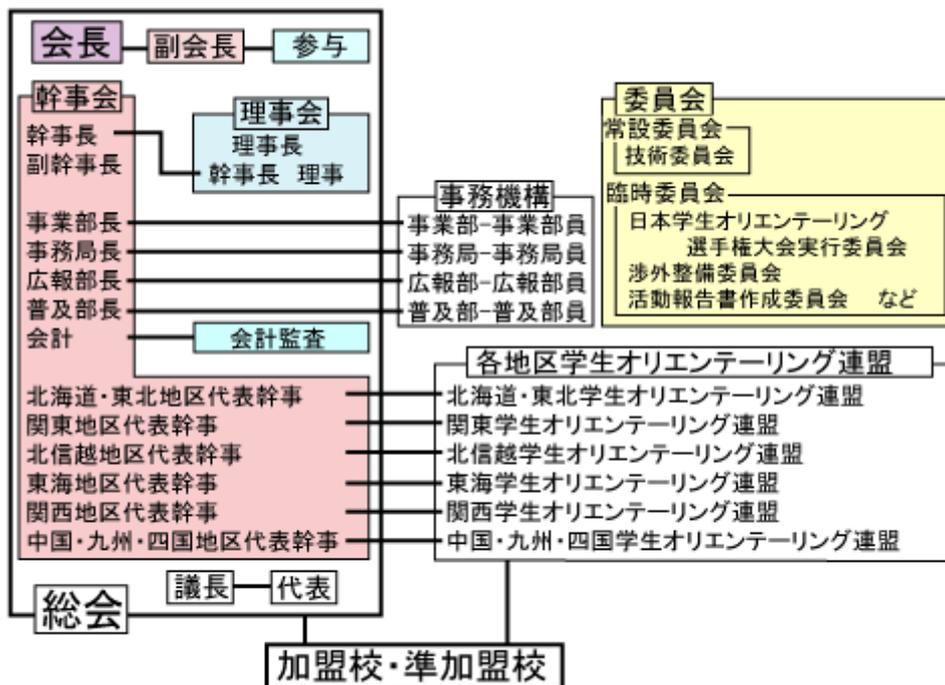
瀬川

詳しくは日本学連 HP 規約書庫
 (<http://www.orienteering.com/~uofj/?blogid=1&catid=6&itemid=16>)
 等を参考にしてほしい。

日本学連は以下の事業を行っている。

- ・日本学生選手権（インカレ）の主催
- ・世界大学選手権（ユニバーシアード）への選手派遣
- ・学生のオリエンテーリング活動の促進事業
 →加盟登録、トレイン整備など
- ・各オリエンテーリング団体との協力
 →JOA との協力など

また、以下の図のような組織構成となっている。



なお、この図は日本学生オリエンテーリング連盟規約にもとづいて作成しました。
 designed by web-uofj,2005.

総会は、本連盟の最高議決機関であり年 2 回の定例総会を行う。幹事会は本連盟の業務の執行を決定し、その運営を行う。

会長の河合さんや副会長の山川さん、理事の方々と意見を出していく。参与は現在機能していない。会計監査は幹事ではないが幹事会の参加を推奨している。

2.加盟校基準について

要旨

幹事会では以下の合意が得られた。今後は、学連登録との整合性、承認の期限を検討する。

- ・「3人以上の加盟員」と「地区学連の承認」が加盟校となれる条件である。
- ・加盟校は「インカレリレー選手権クラスの出場資格」を持ち、「日本学連総会及び地区学連総会への参加義務」がある。
- ・地区学連総会と日本学連総会に渉外が参加しないことが続く場合、準加盟校に降格される。

瀬川	<p>地区ごとに異なる加盟校形態や、総会での議決権の一票の格差について議論している。一票の格差は納得した。基準の統一は人数の基準を統一したかったが日本学連という組織の形態を決める重要なことのため、慎重に議論している。加盟校人数の根拠はインカレリレーの3人以上、地区学連の承認を基準とし、インカレの出場権、総会の参加義務を課すという方向。準加盟校は総会の欠席や地区学連の承認がなかった場合。なるべく多くの学校に加盟校になって欲しいという方向にしたいが、オリエンテーリングを活発に活動しているクラブを選別する基準は難しい。</p> <p>これらについて決定して良いのか、次回幹事会で文言を策定、次回総会で議決したいと考えている。今回の幹事会では洗い出しをしたい。意見はないか。</p>
上野	<p>地区学連の承認というのは地区学連幹事会の承認とすべきか、地区学連総会での決定とするべきかについても考えるべきだと思う。</p>
瀬川	<p>地区学連に加盟をすると日本学連に加盟ができるという仕組みだった。それが現在の地区による基準の差となっていた。これをどうすべきかが議論したいと思う。関東は少人数校が多く、加盟校は頻繁に加わっているが、どういう承認方法が望ましいか。</p>
上野	<p>加盟校を申請するタイミングについても決めたい。また、現状の加盟校は基準統一後にも加盟校申請が必要になるのか。加盟校でいられるのか。</p>
瀬川	<p>新しい基準を3人とすると加盟校数が増減する学連は関東以外にあるか。</p>
遠藤	<p>関西学連での規約は10人だったが、現在最も人数の少ない神戸大学はこれを満たして加盟校となったので増減はしない。</p>
西嶋	<p>東海学連は現在3校が加盟校。10人の規約だが増減はないと思われる。</p>
山本	<p>加盟は広島と岡山で、ともに10人程度。人数の基準は満たしているが現在は加盟校としての活動を十分にできていない。まだ学連として制度を機能させられるかわからない。</p>
瀬川	<p>加盟校が増えることについて違和感はないか。それなら地区学連総会での承認を想定している。制度改正後の最初の承認については、総会の出席校である加盟校</p>

	が存在しない状況で申請してお互いを承認することになるのか。
坂野	それはいちど日本学連が消滅することと同義にならないか。現在の加盟校は新たな加盟校基準を満たしているので、新制度の加盟校として移行していいのではないか。
瀬川	そう解釈したい。では現在 3 名の大学をどうするか。規約改正と同時にそのまま加盟校に移行させることはできないと思う。
坂野	無理に加盟校にさせても渉外を排出できなければすぐに降格してしまう。加盟校になってもらうように推奨はしても自発的な申請をしてもらうべきではないか。
瀬川	加盟校であることの最大のメリットがインカレリレーの出場権とするのなら、タイミングは年度の頭ではなくてもいいが、どこかに基準となる時期は必要。秋に新歓を行って新生が入ってくる大学もあると聞く。学連登録のタイミングはどうか。
吉澤	現在の加盟校登録は 6 月頭、追加申請は 8 月となっている。インカレの申し込みは 12 月まで。いずれの期限も今後変更は可能となっている。
瀬川	地区学連総会は年に何回あるか。関東学連は 4 月、7 月、10 月、2 月の計 4 回ある。地区学連総会での承認の時期が問題にならないタイミングを探したい。
遠藤	関西学連は 4 月、6 月、9 月、12 月、2 月の計 5 回。
西嶋	東海学連は 8 月、12 月、3 月の計 3 回。
丸山	北東学連は年に 4 回。
山本	中九四学連は総会を行っていない。
小山	北信越学連は年に 3 回。
瀬川	9 月頃までの地区学連総会での承認で加盟校になれる、という基準で問題ないか。中九四学連は今後制度が適用できるか個別に相談したい。降格の方法については、日本学連・地区学連総会の両方に出席することで情報伝達が可能になるため、それらの欠席を基準としたいが、地区によって総会開催の回数は異なる。なにかアイデアはあるか、地区学連に任せてしまってもいいものなのか。
遠藤	会議に参加せず、渉外が機能していない加盟校は、地区学連で明らかにわかるのではないか。
瀬川	総会への不参加校をそのまま切り捨てるわけにも行かないから、年度末などには渉外へ連絡をとる、というようなことになるのか。
成澤	地区学連総会三回連続の欠席などで基準を統一するのはどうか。
瀬川	関東学連は地区学連総会を 3 回目の欠席で降格の可能性がある、としていた。しかし関東は総会に出席しやすいし、委任状の制度もある。幹事長の判断に任せてもいいかと思うが、内情にもよる。統一の基準を考えてもすぐに答えが出るものでもないと思う。
上野	来なかったら即降格となるのか。年度終わりに加盟校になるか準加盟校となるか

	通告して総会出席を促してはどうか。地区学連総会がない中も日本学連総会を基準にできる。
吉澤	6 月の加盟校登録と、実際の加盟校が異なる可能性が出てくるとなると、加盟金の差が生じてしまう。
瀬川	追加で加盟校となったら、準加盟校との差額分を追加徴収するのはどうか。
坂野	そもそも現状で加盟金、準加盟金の根拠もない。人数基準も変わるため、さらに加盟金の金額に根拠がなくならないか。加盟金の仕組みも一緒に変えて、加盟金を一律とする、学校ごとの加盟金を廃止するなど制度の変更も可能ではないか。
瀬川	準加盟校・加盟校登録の差額の根拠や意義、会計への寄与など効果も不明。現状でも人数に比例する登録費は集めているわけだし、学校単位の加盟金の基準統一や廃止も検討したい。 降格については年度終わりに判断し、次年度に申請、出席など義務を果たした加盟校は自動的に翌年度も加盟校とする、で異論はないか。
遠藤	一度学連から消滅した期間がある学校が加盟校に復活する場合や、一度準加盟校に降格した学校が加盟校に昇格する場合に関して、承認は必要か。
瀬川	加盟校基準人数を満たす準加盟校については毎年加盟校昇格を打診し、可能であったら総会で承認するのはどうか。
坂野	準加盟を経ずに突然加盟校となることは可能か。
瀬川	年度初めの総会で承認されれば大丈夫。
瀬川	まとめると、「3 人以上の学連加盟員」と「地区学連の承認」が加盟校となれる条件である。加盟校は「インカレリレー選手権クラスの出場資格」があり、「日本学連総会及び地区学連総会への参加義務」がある。 加盟校が総会に参加しないことが続く場合、準加盟校に降格される。 人数の条件を満たす大学は地区学連の承認をもって日本学連加盟校とする。 以上の形で文言を作る。今後、学連登録との整合性、承認のタイミングを検討する。

3. インカレリレー特例措置について

要旨

混成チームが選手権クラスを出走可能になる特例措置についての幹事会の方針は、インカレへのエントリーが大学で 3 人以上あった場合に適用を不可とするガイドラインを制定することとした。

瀬川	これまで実行委員会にまかせてしまった基準で特例としていた。文言も基準もな
----	--------------------------------------

	い。人数が少なく団体戦でられなくても普及の観点から特例で混成チームとして出られる。インカレエントリーが 3 人居たら適用は不可。出場の判断主体は日本学連幹事会だが基準は明確なので実行委員会に自動的に判別して頂く。表彰はしない、速報に花をつけない。これで異論はないか。規約ではなくガイドラインを制定する方針。インカレ要項は半年前の 9 月に出る。それまでに発表して次回春インカレの要項 1 で基準を示せればと思う。
坂野	前回総会でも 3 名以上を認めないという意見があるのみで、その方向でガイドラインを策定することについて問題ないと思う。
山本	ガイドラインを策定しないとどうなるか。
瀬川	ガイドラインに強制力はない。方針を示して、実行委員会に適用をお願いする。形式に拘る必要はないと理事からも意見を頂いている。これはインカレ規約にできない特例であるので規約は作りにくい。

4.全日本大会について

要旨

今回の議論では、JOA と全日本大会プロデューサーに対して

- ・全日本大会開催を 1 年半前には決め、併催すると決断する時期は半年前とする
- ・OBOG さんの実行委員会に併催大会の運営協力は半年以上前をお願いする

と取り決めを作成することとした。

全日本大会とセレクションの共催に関して、学連内での枠の整合性のために

- ・全日本大会 21E 権保持者が地区学連枠以上に存在した場合は、セレクションで選考する人数として学連枠を 1 枠最低限確保する。
- ・全日本大会 21E 権保持者は共催の場合には 21E に出場してもらうためにセレクションを免除しているが、これは 21E に出場しなくても免除となる。

とした規約を作成することとした。

また日本学連幹事会では、全日本大会を活発にするため、地域クラブと学生が交流するための案を引き続き募集していく。

瀬川	全日本大会を学生のインカレセレクションとして利用しやすくするよう、申し合わせとして、JOA との取り決めを考えたい。つまりこれには対外的なもの、内部のものをつくる。 昨年度の議論から以下のことは決めておきたい。 ・全日本大会において地区学連セレクションを併設して行うことができる。日本学連幹事会が全日本大会の開催地から判断して地区学連を指定し、その地区学
----	---

	<p>連総会にて承認がとられた場合、セレクションを併設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日本大会の開催時期はプロデューサーが設定する。ただし、学生側から時期の希望をとることができる。 ・全日本大会の中心的な運営はプロデューサーが行うが、運営手伝いとして当該地区学連 OB に招集をかけることは妨げない。 ・トレインコントロールは 1 年以上前から行う。 ・セレクションは、専用のセレクションクラスを設ける。出走人数が多くなる場合は地区ごとの分割を行う。 ・セレクションを行う地区学連の全日本 20E(ジュニア選手権)クラスに参加する資格を持つ者は、セレクションと全日本 20E クラスのいずれかを選択して出走する。 ・参加費は現状の学生地区学連セレクション並みにとどめる。 <p>今回の議論では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併催すると決断する時期を決める ・OBOG さんの実行委員会に併催大会の運営協力をお願いする時期を決める
山川	<p>地区学連セレクションが全日本大会への併催が決まった場合、プロデューサーとしては半年前には OBOG への運営協力をお願いしたい。つまりセレクション併催は半年前までに決断して連絡していただきたい。今回は関東の採用見送り、北信越の直前の採用で慌ただしく、対応が難しかった。</p>
遠藤	<p>実行委員会形式でも半年前には決まっている。日程とトレインはそれまでに公開していただきたい。</p>
山川	<p>トレインコントロールはかなり早くから行うように働きかけている。全日本大会の品質維持のために次回のプロデューサーも 2 年の任期となるが、椈の湖以後の開催方針に関しても JOA に対して決断を促している。次の 12 月には続く二年間の方針を決断したい。つまり開催自体は 1 年半前には決まっているということなので、問題はないかと思う。</p>
瀬川	<p>地区によって人的リソースが異なっていて、関東は全日本大会の運営者が集まった。セレ運営は OB1 年目が中心だと思う。お互いに人員を融通し合えるようにしたい。</p>
山川	<p>地方での全日本大会開催は運営者も集めにくい。セレ運営についても、学生向けコースの試走人員は OB から欲しい。全日本大会の運営は、中心はプロ、協力者として OB を集めたいと考えているが、なるべく運営がしたいという人を集めて楽しく運営ができたという目標がある。</p>
瀬川	<p>セレ採用は 6 月が前提であって、OB など地区学連セレ運営妨げにならない程度の、当日運営くらいの人員を OB から募集します、という文言を含めて JOA との取り決めとして作成したい。</p>

山川	取り決めについて、値段を据え置くとのことだったが、関東は異常に安いので不可能。北東に合わせて、今回は 2500 円とした。ご理解いただきたい。
瀬川	学連内部での取り決め事 検討事項 ・全日本 21E 権保有者だけで地区学連枠が埋まる 2018 年度まではひとまず別枠（先行通過）という方針で考えている。しかし全日本大会のセレ採用をした/しない学連ごとの不公平感がある。 枠の少ない学連が全日本大会の通過だけで埋まってしまう。関西は女子の枠 2 なのでありうる。
遠藤	全日本 E 権保持者が 3 人居たら枠が 2 なのに全員通すしか無い。セレをやる意味もなくなる。
瀬川	枠が全日本 E 権で埋まってしまった場合、セレクションを開催した場合も 1 名はセレクションによってインカレ E クラス出場権を付与するために枠の拡大を認めることについて、意見はあるか。前途のように 3 人通ったらセレクションはどうするか。
山川	学連全体で、全日本 E 権での免除者 5 名に達したら制度の見直しを行うという予定もある。前年度結果に基づき検討してもそうなる可能性は極めて低いとのことだった。
瀬川	地区ごとの枠では越えることもありえる。
丸山	セレクションで選考する人数として学連枠を最低限確保するのはどうか。
瀬川	埋まっても越えても地区学連に 1 枠付与、男女ともに埋まることは想定していないので、セレクション開催は必ずする。全 6 地区に 6 枠、それはないと思う。技術委員会とも相談する。
瀬川	全日本 21E クラスに出走することを要件とするかどうか 21E に出場してもらうために免除している。全日本大会の活性化が意義。しかし怪我などで出場できない人に対しても強制するのは不当と思う。これを要件としない方針にしたいが、意見はないか。
瀬川	続いて、全日本大会に参加してもらうにはどうすればいいのか、地域クラブと交流するにはどうしたら良いか、について考えたい。日本のオリエンテーリングを支えていく意見を求めている。学生側から全日本大会に対して意見や要望を提出できる。また、地域クラブも若手不足で維持管理が難しいそう。全日本大会を通じた交流があれば盛り上がるのではないかという意見を前幹事長小泉から受け取っている。全日本リレーや 7 人リレーだけでなく、全日本大会でも世代間の交流が行えたらと思っている。
村越	JOA のイベントと学生の協力に関して、インカレは学生のイベントであり、その後の社会人の関わりが薄く、競技人口減少となっている。全体の活性化のために

	コラボレーションが不可欠。いろんな意見があっというと思う。
山川	これまでは改善や要望が伝える方法がなく、オリエンテーリング競技者全体と、学生との繋がりが薄かった。いまは私もいるので直接話しやすいのではないかなんでも言って欲しい。
瀬川	インカレと同様に山川杯（地図作成権）を設けて、クラブ内で全世代合わせた協力を促す。
山川	全日本の中間評価をしたい。900 人来なかつたらインカレの開催が危うい、という話があったが、A と E クラスの出場者数に関しては失敗ではないもののまだまだ。670 人、北東北信越で 150 人、今後 B や C クラス、地元申し込みで 900 人達成できるかは不明。M20E、21A がとても少ない。100 人以上の損失。M20E に関しても高校生と大学生を競う場という意義も全く見られなかった。申し込みを大学別に見ても、大学によって来る/来ないがはっきりしているという印象。 脅しのような不満を多く頂いたが、全日本大会の失敗は YMOE 社の金銭的損失、経済状況が危うくなってしまう。私はインカレを使命感だけで開催可能だが、そんな状況では私の他にやってもらうことはできないため持続可能性がない。付度して欲しい。私の改革に共鳴してもらえた世代と、そうでない世代、そうでない団体がはっきりしていたので、それについては広報の成果を確認したい。
上野	B クラスの意義やコースなど、はっきり広報されていない。
遠藤	関西学連にとって遠方での開催は行きにくい。ロングセレ前週ということで、近場での練習があり、今回の全日本には行きにくい。矢板は非常に遠い上にお金がかかる。金曜夜に移動し、月曜の朝に帰宅するという行程となるため人が集まらない。セレクションへの採用は遠方だとされにくいと思うので、学生の夏休み等での開催も検討して欲しい。
西嶋	広報が不足している。全日本の魅力が伝わっていない。
瀬川	全日本大会の魅力が根付いていないという印象。どういう大会になるのか、わからないことが多い。
齋藤	日本一を決める大会と、楽しい大会という両立。矢板では新鮮味もなくそれは難しい。椈の湖でそうなるかはわからない。まずはセレ共催で人を集めて体験してもらおう段階。エリートとそうじゃない人と、分けて考えて両方楽しめなければならない。
瀬川	すぐにこの場で意見を集められるわけではないので、しばらく意見は募集していく。幹事会で山川さんに提案して行って欲しい。
山川	インカレミドル 6 位までは公認 E 認めることが JOA の方針で決まっている。

5.秋インカレに関するお知らせ

山川	<p>秋インカレ実行委員会から、4点連絡があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤字問題について、実行委員会では原因の対策をしている。モデルイベントの開催をする方針、関ヶ原という交通の要所であるので各地区から役員を募集できるものの、近場から集めて交通費を抑えられるようにしている。 ・参加費も値上げする方針。 ・幹事長と会計の承認可能な 20 万円の拠出はあるものとして運営している。 ・詳細は要項 2 を待つて頂く。 <p>昨年度秋インカレの YMOE 社の負担が 150 万円程度という話はしたが、値上げと 20 万円があってもまだまだ不足すると思う。これを前提に赤字という状況の改善をしていってほしい。</p>
----	--

6.スキーOのユニバーシアードについて/JOAの現状と今後の事業方針について 要旨

JOA は世界学生スキーオリエンテーリング大会に関して、2020 年 2 月の日本での開催立候補を応募したので、開催決定の際には日本学連と協力して大会を盛り上げていく。

また、オリエンテーリングの普及発展のために JOA と日本学連は今後も協力や意見交換を行っていくとした。

村越	<p>JOA 副会長です。学生の JOA 会員化が 2 年前であり、協力はまだ課題が多くある。様々なことについて一緒に考えていきたい。</p> <p>まず、世界学生スキーオリエンテーリング大会に関して、2020 年 2 月の日本開催を提案したい。開催立候補を応募したが、今年 12 月に決定する。決定は先になるが、選手強化や盛り上げていくためにぜひいろいろ協力していきたい。</p> <p>この開催意義について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.東京オリンピックに合わせて開催することで日本国内でのオリエンテーリングの存在意義を上げる。 2.国際スポーツ競技会を日本国内に誘致することは国際スポーツにおける日本の存在価値を上げる。 3.スキーオリエンテーリングをアジアで開催することで国際的な広がりアピールする。冬季オリンピックへの採用を目指す一助となる。 4.オリンピック種目への採用を目指すことで国際的なオリエンテーリング普及に
----	--

	拍車をかける。
村越	<p>中長期的な目標設定について。オリエンテーリングに対して誇りを持って、社会にアピールできるよう JOA としても作り上げていきたい。一般に外から見て学生トップのオリエンティアの持つナビゲーション能力は素晴らしいスキルとされている。このスキルを社会に紹介し、役立てて欲しい。それが発展につながると思う。しかし、高齢化や衰退の兆しはあり、再活性化や収益の改善などを方針として示したい。JOA は昨年度の値上げや改革によって黒字化を達成した。中期的に以下の事業を検討、実施する。</p> <p>I 日本と世界をオリエンテーリングでつなぐ II フェアプレーを応援する III 社会に役立つスキルを広める IV 仲間を増やす V 組織基盤の確立</p> <p>I について。ワールド・マスターズゲームズで日本人が優勝した。健康長寿大国としてこの大会で優勝の可能性は高いと言える。</p> <p>IV と V について。全日本改革をはじめとして環境を良くしたい。教育的、社会的価値を普及したい。ロゲイニングやマウンテンマラソンを通じた普及で仲間を増やす。オリエンテーリングはかなり専門性が高いが、門戸を広げる。山岳部への普及も考えているが、大学生にも協力をお願いして高校生への普及も図りたい。財政に関しても立て直しはできたが、人材の育成を行いたい。持続可能な形を探したい。</p>
村越	<p>個人的な宣伝になるが、コースプランとリスクマネジメントの講習を行っている。関東と関西で開催した。東海は 7 月 1 日に開催する。8 月 13 日にも関西で開催する。良いコースを作って良いコースを作成することで良い練習をする、また非常に危険なスポーツであるオリエンテーリングのリスクマネジメントを考えてほしい。</p>
瀬川	<p>高校山岳部とのコラボは何か実績あるか。</p>
村越	<p>滋賀・新潟の OB が山岳部に関わっている。会長の山西さんと、高体連に挨拶する。言ってもらえれば上からつなぐことができる。26:47</p>
坂野	<p>私はインターハイ実行委員会にも入っているのだが、高校オリエンテーリング界と JOA の繋がり、JOA からの協力や提供も頂けるに越したことはないとは個人的には考えている。</p>
村越	<p>高校オリエンテーリング連盟のようなものを設立してもらえたら、JOA との協力関係を築きたい。それによって組織としてのリスクマネジメントが可能になる。高校の部活動としての後ろ盾に JOA が存在でき、国内大会だけでなく世界大会への架け橋にもなると思う。金銭的に大きな負担を求めることはないので、</p>

	それについては心配しないで欲しい。
村越	停滞している地域クラブ、特に首都圏以外の地方へ学生をつなげる。
瀬川	地域クラブと学生の、お互いに活動が見えにくいと感じている。この会議のように場を設けて透明度を高めたい
村越	地方は学生と県協会との繋がりが強いと思うので、お互い助け合ってほしい。私のいる静岡では静岡大学と地域クラブ協力して合同の活動もしている。
西嶋	愛知県では大学と愛知県協会が協力している。
山本	広島県協会のメンバーの高齢化もあって、交流は盛んではない。
村越	地方は人が少ないものの、JOA が中央から支援して、長いスパンで地域の活性化ができないだろうか。社会人がいることで学生が遠征しやすくなるなど活発になればと思う。地域活性化のためにも学生と社会人を繋げられたらと思う。

7.地図会計について

要旨

地図の発注に関して、契約の更新方法について検討した。山川氏発表の印刷枚数表にある枚数が適切か、今後は会計による確認を行うとした。

齋藤	委託管理契約について説明する。山川さんにしている地図の印刷調整などの仕事を文書化しようと数年前から検討している。既にいま学連所有地図作成と修正について成文化した。その他にも所在地の提供、資材の管理と提供について、渉外についても今後成文化したいが、今回は地図の印刷調整についてのみ、契約分を作成したい。 第 13 条：契約の更新方法について議論したい。1 年では業者として見通しが立たないが、5 年は状況の変化に対応できず、長すぎる。根拠はないが、2 年が落としどころだろうか。他にスパンが長い仕事はあるのだろうか。
山川	インカレの渉外は 2 年前から始まっている。
坂野	資料にある日光口+例幣使街道などで、販売代金が 600 円の根拠は何か。また、いくつも隣接している矢板地区におけるトレイン 1 つと言うのはどういう基準か。
山川	印刷費について 1:10,000 は 150 円、1:15,000 は 200 円としている。販売代金には学連所有トレインとしての著作権代が 200 円上乗せされる。販売代金が 600 円のものについては、1:15,000 テレインなので印刷費が 200 円と、著作権 2 枚分を接合した地図なので 200 円×2 で 400 円の計 600 円で販売している。600 円のうち 200 円の印刷費は YMOE 社の収入であり、学連には 400 円渡している。

	また、テレインは学連の資金で開発した際の計画段階で分かれている。1 テレインはおよそ 1:10,000 の A4 マップ。
瀬川	今回の契約と今後の契約について改めて枠組みを説明して欲しい。
山川	学連と業者との契約は 4 つに分けて構想している。1.事業計画(新機軸事業)と地図修正契約の簡易化、他社参入も可能にするようなものの策定。2.学連所有地図の印刷や調整。3.地元との渉外、年間 120 万円を想定で現在文書化中。4.資材の管理や保管、運搬。 4 つの契約すべてについて、山川ハウスができたことによって活動の幅が広がっている。学連、業者である私、今後参入する他の業者の全てにとって条件が良い契約文書を作りたいと理事と考えている。
瀬川	インカレのメダル作成が山川さんの作成というのはどういった事業なのか。学連として文書化はされるのか。
山川	メダルの作成は実行委員会の裁量と付度によって私に頼まれているのが現状。私が学生時代からの付き合いで、本郷にある業者に頼んでいる。
齋藤	メダルを別のデザインにしようということであれば、別の業者の発注も問題ないという認識でいる。契約文書かは必要ない。ただ、現状のメダルの質は安定して高く、山川さんにお問い合わせすれば間違いないということになっている。同じくインカレに関して、以前はプログラムの印刷も山川さんを経由して発注していたが、いまは毎年違う業者を検討している。しかしプログラム入稿の様式や納期について業者によって異なるため、どういう業者が良いのか試行錯誤しながらやっている。
瀬川	地図の発注に関して、この表にある枚数が適切かチェックは可能か。確認作業は大変だと思うが、山川さんの自己申告となっているのは不透明であり、良くないのではないかと。また、地図の渉外や修正もどなたか確認しているのか。
山川	私と練習会等の担当者との間のメールをその都度見て確認して頂くことになる。現状そのような確認作業はなされていない。渉外や修正の事業に関しては理事が確認している。
齋藤	地図の発注枚数は確かに山川さんの今後会計監査の業務として取り入れるべきかと思う。表によると年間 70 件近くあるので、地図利用団体への請求書をメールするとき C.C.で会計や会計監査に連絡して記録してもらいたいと思う。今後やってほしい。

8.インカレのペナントについて

瀬川	優勝カップのペナント（優勝者名を記すための細長い布）がここ数年はついてな
----	--------------------------------------

	い。優勝カップに誰が優勝なのか書かれていないのは問題ということで、優勝者が自主的にその分を作成していただいたことがあった。
山川	メダルの業者から受け取る際に付属しているので、実行委員会には届いているはずである。しかし業務として引き継がれていないので紛失されているようである。ペナントは 1 本 100 円程度のものである。
齋藤	実行委員会の経験はあるが、ペナントが付属しているのは見たことがない。どこにあるのか。
山川	レプリカに付属している。
齋藤	それを優勝者が受け取るのは優勝カップを返す時だから、名前を書けるわけがない。優勝者は自分でペナントを買って名前を書いて付けていることがあると言うが、この業務は実行委員会に引き継ぐ必要がある。
山川	今後私が実行委員会に言うことにする。表彰時にレプリカから抜き取って、優勝カップとともに渡すようにする。
山川	また、女子ミドル優勝杯の箱を紛失され、男子リレー優勝旗の剣先が破損している。これらについて幹事長と会計の決裁を取って修繕したい。見積もりもあるため、修繕して良いか。
瀬川	必要なことで、反対する理由はない。修繕よろしくお願いします。

9. インカレスプリント会計について

要旨

インカレスプリント運営は負担が大きく赤字である。運営形態も持続可能な形ではない。収入増のためにも、今後議論を重ねて選手権人数を増やしたい。

瀬川	<p>どうにかして赤字を抑えて、大会を持続していきたい。そうやって運営すればいいか学生では実情が分からず制度化が難しい。秋インカレについての連絡があったように、モデルイベントの開催をする方針、関ヶ原という交通の要所であるので各地区から役員を募集するが近場から集めて交通費を抑えられるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費も値上げする方針。 ・幹事長承認可能限度額 20 万円の拠出はあるものとして運営している。 <p>でも根本的解決となっていない。運営形態をどのようにすべきか。</p>
山川	<p>スプリント担当理事が存在せず、実質的に私の裁量になってしまっている。駒ヶ根で開催すれば赤字にならないと判断して、来年度スプリントロング開催地を判断した。</p>

齋藤	第 1 回富士見でのインカレスプリント実行委員長を担当した。とても条件がよかったが、僅かな赤字であった。ロングがありきでトレインを選んで、スプリントも隣接地を使用できた。栃木はスプリントとロングが離れていて、交通費や人員が不足して大赤字となった。
山川	来年度駒ヶ根は確実に赤字にならずに安全な開催が可能である。そのため議論の余裕はあるし、スプリント大会を盛り上げるために様々な要素を取り入れることができる。一般クラスのあり方を変え、選手権人数を増やして、面白く収入も増やし、盛り上げるイベントに作ることも可能と思う。
齋藤	実行委員会立ち上げはもうすぐはじまると思う。選手の人数や運営形態をいまから考えては駒ヶ根には間に合わないのではないか。
瀬川	収入のためにも選手権人数を増やしたいと考えている。しかしこれには加盟員へのアンケート等議論を重ねたい。
齋藤	9 月幹事会で具体性、11 月総会にアンケートもとる。1 月幹事会で次回実行委員会にも来てもらい、相談する。
山川	参加者の人数を増やす方向性は必要と思う。選手権や一般の人数を増やせばモデルイベントの時間が減る。駒ヶ根ならできる。

山川登が大会運営のため途中退室。以降の議論に参加していない。

10. 事業計画について

要旨

事業計画第 5 弾となる「倉掛湧水池」について、164.1 万円を使用する山川氏の新規トレイン作成を幹事会で承認した。

瀬川	事業計画について新規トレイン作成の計画書が山川さんから連絡あったと思う。問題がないか精査して議決を取る。
齋藤	事業計画について、背景から説明したい。昨年までの名前は新機軸事業といった。学連会計にある 2000 万円近くの財産を、所有地図の拡大や修正に予算を割くことにしたという計画である。地図さえあれば学生のオリエンテーリング活動は活発になるという趣旨で、この計画は御存知の通りかなりうまくいっている。学連の会計は、20 万円までの使用は幹事長と会計、200 万円までは幹事会、それ以上は総会の承認が必要となっている。今回の計画は 160 万円で地図を作成するとあるが、山川さんにそれだけの財産を預けて大丈夫か、幹事の皆さんでしっかりと見て、聞いて欲しい。

山川	いままでは事業計画の前例を踏襲して 160 万円と申請していたが、塩谷田所では面積も大きく、時間も掛けてしまった。
齋藤	地図調査費用の算出方法をわかりやすくするために、面積あたりの単価を暫定していた。これはテレインによって変わってくるため、色々な状況を勘案して価格情報を蓄積していつている。事業計画については、毘沙門での OC 大会が 5000 円/ha、矢板山田での千葉大東工大大会が 5800 円、山苗代での筑波大会は 6000 円、塩谷田所での KOLC 大会が 4500 円であった。
山川	今回の範囲に関しては、レーザー測定の基盤地図情報のない完全新規作成が 6000 円/ha、既存のエリアの大幅修正は 4500 円とした。面積はそれぞれ OCAD で測って算出した。現在までの調査範囲はとても見通しの良い白い森。また今回の調査ではインターンシップ制度も行っていて将来への投資も兼ねている。さらに、この範囲の作成によって塩谷田所と矢板幸岡がつながる。これによってロング大会も開催できる魅力ある地域になる。
齋藤	新規作成エリアは本当に 6000 円で充分なのか。田所のようにならないか。
山川	田所は藪が多かったので、前例に則って甘く見積もったら想定より時間がかかり、単価が異様に安くなってしまった。単価に関して、新規エリアで 7000 円以上としたのは希望が丘で 8000 円以上、福井のあわらで 7000 円だった。それらよりはさすがに簡単だと判断して 6000 円/ha とした。
齋藤	矢板の全図を見てもらえれば分かるが、ここが作図されれば矢板の多くの範囲がつながって、全体の地図売上にもつながる可能性がある。
瀬川	1ha あたりの算出方法について、藪の面積をどのように処理したのか。山川さん以外が同様の事業をした場合もこの価格でいいのか。
山川	もし今後テレイン作成にあたって藪などの障害があっても、値段の修正は幹事会である程度可能になっている。これまでの下見の状況から田所のように完成の遅延やタダ働きにはならないと考えている。
成澤	では質問が他になれば幹事で承認を取りたい。 事業計画を承認する方は挙手をお願いします。 全会一致(12)で承認。
齋藤	事業計画とは異なる契約の話だが、突発的な地図修正の際に幹事長と会計の承認で拠出可能な 20 万円を、修正後の事後承認する不適切な処理が昨年度存在した。いま例幣使街道の大規模修正が必要になっているとの報告もあり、頻繁なメンテナンスやその拠出方法は課題となっている。 しかしヤマカワハウスがある現在、修正予算の様式や、承認までのタイムラグは山川さんが動きにくく、実情に即していない、という背景を説明したことがある。それについて、修正予算承認の契約簡素化をしたいと考えている。地図修正に関して山川さんが動きやすくなるよう、1 日 3 万円を目処に調査修正予算の承

	認をメールや電話で可能にしたいと考えている。契約額の上限は変わらず 20 万円としたい。この制度についてわかりやすい名称を募集したい。今後文書化していく。
--	---

11. 千葉大学渉外問題について

要旨

オリエンテーリング活動のための基本的な渉外ノウハウを蓄積し共有するために学連後援大会では渉外報告書の提出を募っている。どのような形で共有すべきか検討した結果、JOAでも検討していただくことになった。

瀬川	<p>千葉大が作成・所有するトレインである釈迦谷で、区長さんとトラブルがあり現在トレインを使用できない。再び使用可能になるよう渉外上のアドバイスが欲しい。また、昨年度から日本学連が後援を承認した大会については渉外報告書を提出してもらっている。しかし具体的にトラブルが合った場合について対処法を提案できるほどの蓄積はない。今後千葉大のような問題は起こしたくないので、ノウハウの蓄積や共有が課題である。</p> <p>トレイン渉外はケースバイケースと言わざるを得ず、渉外報告書は具体性が高く個人名も含まれるためそのまま公開し共有できるようなものではない。ノウハウの蓄積方法や共有の方法を考えたい。</p>
山川	<p>この千葉大の件について、同様の問題はこれまでも多くある。筑波大開催の「矢板の原点」にあたって過去の資料がインターネット上にある。 (参考：こむこむ ONLINE 矢板 25 年史 http://www.orienteering.com/~comcom/index.php?%CC%F0%C8%C425%C7%AF%BB%CB)</p> <p>これは千葉大の件とほとんど同じである。その大会を成立させるためだけの短期的視点でトレイン渉外をするのではなく、常にその先の利用を見据えて欲しい。今回の件も時間を掛けて真摯に対応していくしかないと思う。</p>
瀬川	<p>それはそうだが、ノウハウがわからないことはオリエンテーリング大会の渉外の障壁になっていないか。ノウハウを蓄積することでもっと簡単に大会を開催できないか。例えば、筑波大学は毎年使用していないトレインについても地元への挨拶をおこなっていると聞いたが、そのような渉外手段があることを知らなかった。他の団体がどうやって渉外しているのか、根本的に情報が足りない。学生他団体のノウハウだけでなく、地域クラブのノウハウに関してどのように渉外を行っているのか知らないことが多い。情報を共有するべきではないかと感じてい</p>

	る。村越さんのおっしゃる JOA との繋がりについても、これを発展させられないか。セミナーの開催等、意見交換をできればと思う。
村越	渉外の失敗は学生や社会人問わず、オリエンテーリング界の損失と捉えてこの問題は解決していきたい。渉外問題はオリエンテーリングへのイメージダウン、競技全体へのバッシングに繋がりがかねない。難しいが、一応のガイドラインを策定すべきだと思う。常識的な部分や一般的なもの、大人の対応方法などをまとめられないか JOA でも検討する。これは放置できる問題ではないと感じたため、JOA へ持ち帰って検討する。

12. 普及新歓活動について

要旨

新歓活動は各地区や各校の手探りで、どうやったらうまくいくのかが体系的になっていない。情報を共有したり、学連として支援したりすることで、加盟員数を今後も維持していくためにできることがないか考えていきたい。

瀬川	全日本大会でも感じたが、もっと人数がいればいろいろな問題が解決できるのではないか。新歓についても近年は成功していて人数は増加しているが、2010 年頃は非常に加盟員が少ない時期もあった。なぜこうなったのか、今後も安定して加盟員が増え、活発になるにはどうしたらいいか。新歓がうまくいくよう情報も共有できないか。
山川	人数減少のポイントは 3.11 の震災と思う。それ以前は全てのサークル活動が低迷期だったように思う。震災以降仲間意識やサークルの繋がりが回復した。これはオリエンテーリングに限らず、社会的な風潮だったように感じる。
齋藤	昔の話だが、関西や東海学連は既存校から加盟校数が変わらず、新規の普及意識がなかったため、幹事長だった私から新規加盟校獲得のための新歓もするべきだと言ったこともあった。0 から 1 にする、学校数を増やすことは本当に大切。
村越	新規加盟校のために経験者の存在は重要で、それには高校で普及活動をする 것도大切だと思う。オリエンテーリングを知っている人が大学に入ることが新規加盟校獲得のための大きな要因となっている。
山本	島根出身の登山経験者が入部したが、話を聞くと高校でのオリエンテーリングの知名度は大学での入部に関して重要と思う。
瀬川	同様な話は OLK 内部で行ったアンケート結果でもあって、新入生の多くはオリエンテーリングの存在を入学以前から認知していたということがあった。
坂野	連絡したように、広報誌いぶきに掲載する特集として、地区学連幹事長からの新

	<p>歓報告を掲載したい。もちろん他の幹事からの寄稿も受け付けるし、幹事長からも一筆いただきたい。今年は新歓が成功したという声が多くあったが、情報共有やノウハウの一般化につながればと考えている。ご協力をお願いします。</p>
瀬川	<p>木村さんの新歓チラシ成果についても報告したい。幹事からのみ集めた感想になるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生が読んでこの競技について十分理解できる内容 ・ ビジュアルが良い。しっかりデザインがされている。 ・ もう少し目立つデザインのほうがよいのでは ・ クオリティが高く目に留まりやすかった ・ 認め印のついたビラしか配れないことになっており、説明会に来た人にもみ配布した ・ インカレの画像など多くの選手が活動している写真があればより本格的な競技をしていることが伝わりやすいのではないか ・ ビラのサイズ規定や審査に間に合わず、ブースでの資料として使用した。 <p>全体的に好評であった。ビラの新歓への寄与は計れないが、全国的に新歓はうまくいったように感じている。</p>
齋藤	<p>インターネットサイトなどのメディア広告を利用して、高校生や大学生に対してオリエンテーリングの認知度を上げることも可能だと思う。学連は資金があるので、前途のようにそもそも競技の認知が必要と言うことであれば、広告費を払って存在を広報することも検討して欲しい。</p>

13.技術委員会の今後について

要旨

- ・ 技術委員の人手が足りないと言うが適正人数や実態がわからない
 - ・ 各大学から一人委員を排出するルールが形骸化している
 - ・ 昨年度学連合宿が行われていないが、今後は開催されるのか
 - ・ セレ通過人数が規約通りの期日が出ていない
- などと活動が滞っているが、改善できないか検討している。

瀬川	<p>技術委員会のメンバーが不足していて学連合宿開催などの活動ができていない。関東からは 2009 年を最後にメンバーが入っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術委員を継続的に排出する方法の模索 ・ 期日通りにセレ通過人数を示す仕組みづくり <p>について話し合いたい。</p>
----	---

齋藤	以前からボランティアに依存していたものの、ユニバーシアド経験者は学連から支援された恩を返す意味で技術委員会に参加していたということがあった。たしかにボランティアを強制するのは難しい。近年は活動実態がないのでどうやって開催したら良いのか分かる人も居ない。
瀬川	技術委員会が何をできるかわからない。新しく制度づくりするくらいのことが必要なのか。
齋藤	大西がほとんど個人でやっている。シード選手の選考もしている。合宿をやってほしいなど個人に対してお願いしていくと、やってくれる人はいるのではないのか。
瀬川	まず人手がいるのか、制度があるのか、何ができるのか、全くわからない。このまま大西さんに全てをお願いしていいのだろうか。
齋藤	競技を通して日本中に知り合いができる学連合宿は自分としては価値あるイベントと思う。あったほうが良いのか、無くても良いのか。
山川	昔は学連合宿で教えてもらわないとできなかった高度な練習が、いまは各校でできるようになっているようにも感じる。練習の質量ともに向上している。
瀬川	小規模なクラブは学連合宿があったほうが良いのかもしれない。そのような高度な練習ができるのは大規模なクラブだけだと思う。
齋藤	それによる学校やクラブの内輪感はあるって、もっと交流を盛んにして欲しい。
山川	山川ハウスで私の主催で開催しても良いと考えている。
村越	JOA でも JOA 合宿や強化委員会がある。学連と一緒に連携して活動も可能と思う。
瀬川	大西さんもいらっしゃらないので、今回はこれ以上話を進められないが、今後も技術委員会に関する話は継続していきたい。意見があればメール等でもお願いします。

14.メーリスについて

瀬川	渉外全体メーリスを移行した。いまだに orienteering.com を利用している y メーリス（理事を含む日本学連メーリングリスト）も移行したい。できるだけ多くの人に新しい ML に来て欲しい。
齋藤	k メーリス（幹事のメーリングリスト）を orienteering.com から google グループに移行したのは私だった。その際に y メーリスも移行したかったが、昔から参加している方を切り捨てることができなかった。しかし現在の理事の方が全て入ってさえいれば問題無いと感じている。orienteering.com はここ半年の間にも長時間のサービス停止があったため、移行しても問題ないかと思う。

坂野	渉外全体メーリスを今年度はじめに移行したが、理事の方から連絡がなかったため入っていない方も多いと思う。
齋藤	リストを送るので、登録して欲しい。

15.HP について

瀬川	坂野が管理しているので各部局何かあったら連絡するように。昨年度から渉外報告書を掲載しようとしていたが、大会主催者からの渉外報告書をそのまま載せることは、個人情報や個別事例に関して公開しにくい部分が多いため、前途の千葉大学の渉外問題の話にもあるように、何か資料を作成していきたいと考えている。
坂野	普及部からは細さんから賛助会員の年度を更新するよう依頼があり修正した。事務局からは記載の事務局住所変更をした。広報部でもチェックして気がついたことをその都度修正しているが、確認しきれないので各部局で HP 記載に間違いや変更があれば教えていただきたい。
瀬川	昨年度は事務局所在地変更に伴っていくつか規約を変更したが、日本学連ホームページ掲載の規約は古いままとなっている。幹事長引き継ぎにある規約データから、該当の文章を訂正したものを作成して送るので掲載して欲しい。

16.後援大会について

瀬川	後援申請の締め切りは開催日の半年前までです。終了後は渉外報告書の提出義務があります。また、後援大会の会場では賛助会員を受け付け、目安箱も設置しているが、どのように実施しているか把握したい。
坂野	目安箱は幹事長から事前に連絡があり、箱と用紙は実行委員会側で準備した。実行委員会で準備できなければ幹事長が準備するようなことも言っていた。
吉澤	目安箱の設置や報告書の義務について、後援承認書の返信に注意事項として書くことはできる。
坂野	目安箱の設置については主催者にも参加者にも広く知られているとはいえない。
瀬川	賛助会員は普及部の役割で、後援する大会の会場で受付をするものとある。目安箱は幹事長から大会実行委員会へ連絡するということとする。
吉澤	幹事会までに届いた後援大会の承認を行う。10月14日の筑波ロゲイニング、10月15日の筑波大大会、2月18日の早大 OC 大会から連絡が来ている。

山川	KOLC 大会の後援申請は学連事務局長の指定送付先ではなく、山川ハウスに届いていたが、ここへ持ってくるのを忘れてしまった。次回承認で問題ないか。
瀬川	筑波ロゲイニングについて、オリエンテーリング連盟である我々が後援することについては、ロゲイニングも同じナビゲーションスポーツであり、オリエンテーリングクラブによる運営ということもあり学連が後援してもいいかと思う。異議がなければ議決の上で承認したい。
	筑波ロゲイニングの後援を全会一致(12)で承認
	第 37 回筑波大大会の後援を全会一致(12)で承認
	第 38 回早大 OC 大会の後援を全会一致(12)で承認

17.学連発足 35 周年に向けて

瀬川	今年でおそらく 33 周年になる。個人的な意見だが、学連の記録、トレイン紹介などを冊子にして記念品とできないか。引き続き案を募集する。
----	---

18.理事会報告

齋藤	岐阜県で開催される秋インカレのアドバイザーの承認を行った。スプリント競技部門が名古屋大学 OB の近藤康満、ロング・ディスタンス競技部門が同じく名古屋大学 OB の菅谷裕志である。
----	--

19.各部局活動報告

瀬川	各部局長は前回幹事会以降の活動報告をしてください。
竹内	会計は 3 月末にみずほ銀行の口座を引き継ぎ、今後議事録が用意され次第ゆうちょ銀行を引き継ぎする。
矢野	事業部は引き継ぎを行い、本日の会場と宿泊を予約した。
坂野	広報部は渉外メーリングリスト登録を行った。幹事会議事録を公開した。総会議事録も確認が終わり次第公開できる。今後は 2 人体制で書き起こし等の分担をして、終了後 2 週間以内の公開を目指す。
吉澤	事務局は今後加盟登録を行う。的場さんの加盟登録システムによって各校の渉外担当者が専用の HP から加盟登録を行えるようになった。また、東北、名楯、岩県大会に大会後援の返信をした。

丸山	臼井からの伝言で、普及部は賛助会員の広報を行った。
瀬川	堀江からの伝言で、渉外部は 7 月までの練習会申請回覧書を作成した。全日本大会終了後に矢板地区渉外を行う。
瀬川	春インカレ実行委員会から連絡があったのでここで注意喚起する。実行委員会側に連絡なく宿に対して直接宿泊者数追加の連絡をして、宿に迷惑をかけた大学があった。またバス代金の振込が、連絡もなく遅れた大学があった。エントリーは要項をよく読み、上級生がしっかりと補佐して申し込んで欲しい。

20. 地区学連活動報告

瀬川	各地区学連幹事長は前回幹事会以降の活動報告をしてください。
丸山	北東学連は春インカレ後に総会を開催した。全日本大会で総会を行う。
小山	北信越学連は春インカレ後に総会を開催した。全日本大会でロングセレを行う。関東学連と合同でスプリントセレを行う。
上野	4 月 2 日に総会を開催、5 月 28 日に臨時総会と翌日ペア O を開催した。7 月 2 日ロングセレ兼関東インカレ、9 月 23 日にスプリントセレの開催を予定している。
西嶋	東海学連は 3 月 27 日に総会と引き継ぎを行った。7 月 9 日にロングセレ、今後は 7 月 12 日にスプリントセレ、8 月に東海学連合宿で総会を開催する。
遠藤	関西学連は、3 月 25~26 日の第三回定例戦が積雪により中止、年度末に引き継ぎ、5 月 14 日に学連新歓と総会、6 月 25 日に関西インカレ兼ロングセレと総会、7 月 16 日にスプリントセレ、8 月 6 日に JOA 近畿連絡会を行う。
山本	中九四学連は引き継ぎを 4 月に行った。6 月 11 日に新歓練習会を数回行う。ロングセレは関西と合同で行う。今後はまず地区学連総会を開くよう計画している。

21. 次回幹事会について

瀬川	次回総会は 10 月 1 日開催の京大京女大会の前日、9 月 30 日に三重県内で行いたい。宿と会場の予約等手配をお願いします。
----	--